



Data 2023-110

監督：イ・ソクフン
出演：ヒョンビン/ユ・ヘジン/イム・ユナ/ダニエル・ヘニー/チン・ソンギョ

👁️👁️ みどころ

2022年3月の大統領選挙で、“親北政権”から“親日・親米政権”に180度転換した韓国は今、韓日米の同盟を強化中。対する北朝鮮は、ロシア、中国との連携を強化しているから、本作（本シリーズ）がテーマにしている“北と南の共助捜査”は到底ムリ。米国のFBIが加わることなど、夢のまた夢だ。

しかし、映画はフィクションだから、何でもあり！北朝鮮の麻薬密売組織のリーダーにして、米ドルの偽札作りにも関与した男が韓国に入ったという情報に接すると……。そこで見せる北×南×FBIという三者の共助捜査とは？

北と南の共助というテーマは面白い！その着眼点もよし！また、凹凸コンビのキャラもそれなりに面白い。ところが、北の特務捜査員のイケメン度が過ぎるためか、“色目使い”のコメディ色が強すぎるのが本作（本シリーズ）の難点だ。ここは何とか改めなければ……。

—————*—————*—————*—————*—————*—————*—————*—————*—————*—————

■□■北と南の“共助”捜査がテーマ！その着眼点やよし！■□■

2017年に作られた『コンフィデンシャル 共助』（シリーズ第1作）は、北朝鮮の特殊部隊員リム・ Cholリョン（ヒョンビン）と、韓国の庶民派熱血刑事カン・ジンテ（ユ・ヘジン）が、米ドル偽造の要となる「銅板」を巡って“共助”するという面白い企画だった。そのテーマやよし！しかも、2018年2月に開催された平昌（ピョンチャン）冬季五輪の話題で盛り上がり、「南北首脳会談」開催の可能性が語られる中での同作の公開はタイムリーで、その着眼点もよし！また、同作で初めて見せた北朝鮮の特殊部隊員 Cholリョンと韓国の庶民派刑事ジンテとの凹凸コンビの組み合わせも絶妙だった。

同作について、2018年2月9日付読売新聞夕刊では、著名な映画評論家の山根貞男氏がかなり好意的な評論を書いていたから、私は大きな期待を持って同作を鑑賞した。ところ

が、残念ながら結果はイマイチ。「共助という観点から見ても、同時期に公開されたジョン・ウー監督の『マンハント』(17年)、『シネマ41』117頁)の方が圧倒的に面白い」と書いた(『シネマ41』未掲載)。それは、同作のストーリー構成の核であるはずの米ドル偽造のための銅板が意外にチャチなものだったうえ、ジンの妻パク・ソヨン(チャン・ヨンナム)やその妹のパク・ミニョン(イム・ユナ)を巡るコメディ色満載の恋模様の展開(ドタバタ劇)があまりにくだらなかったためだ。すると、シリーズ第2作となる本作は？

■□■舞台はニューヨークから！FBIと北朝鮮との絡みは？■□■

文在寅(ムン・ジェイン)前大統領の任期満了により2022年3月9日に実施された大統領選挙で李在明(イ・ジェミョン)候補に勝利した尹錫悦(ユン・ソンニョル)大統領は、2023年9月現在「親北」一辺倒だった文在寅とは正反対の、保守党らしい「親日」「親米」色を強め、今や反北路線をひた走っている。したがって、第1作と本作は南北関係を巡る政治状況は大きく異なっているが、犯罪捜査においては北も南もなく、北朝鮮と韓国の共助が不可欠であることは言うまでもない。

ところが、本作冒頭の舞台は意外にもニューヨーク。そこでは、FBI捜査官のジャック(ダニエル・ヘニー)が、国境を越えて暗躍する北朝鮮の麻薬密売組織のリーダー、チャン・ミョンジュン(チン・ソンギョ)をやっと逮捕したのに、北の特殊捜査員リム・ Cholリョン(ヒョンビン)が現れ、ミョンジュンは北朝鮮に送還されることになってしまうストーリーが描かれる。これを見ていると、本作後半は、ひょっとしてFBIも北朝鮮の Cholリョンと韓国のカン・ジンテ(ユ・ヘジン)と共助捜査体制に・・・？

■□■前作と同じ、凸凹コンビによる共助捜査体制の構築は？■□■

本作ではそんな予想ができるが、本作の本格的ストーリーは、FBIの護送車から無事北朝鮮へ脱出したミョンジュンが、偽造パスポートを使って韓国に渡ったという情報を聞いた Cholリョンが、上層部からの命令を受け、ミョンジュンを追って韓国に入るところから始まる。北の軍人だったミョンジュンは偽造米ドル紙幣作りにも外貨稼ぎのための麻薬売買にも関与していたが、麻薬売買の事実が国内外に知られて党が禁止したため、ミョンジュンは10億ドルと共に姿を消してしまったらしい。しかし、なぜミョンジュンは、韓国に渡ったの？ Cholリョンはそれを調べるために韓国に入り、ミョンジュンを逮捕しなければならないが、韓国での捜査には韓国警察との共助が不可欠だ。

そこで北朝鮮からは韓国に対して共助捜査を依頼してきたが、前回に Cholリョンと共助し、相棒となったジンテやその家族が命の危険にさらされたことを知っている韓国警察は、誰もそれを志望しなかった。そこで名乗り出たのが、再びジンテ。捜査中のミスから今はサイバー捜査隊へ異動させられている彼は、何とか手柄を立てて元の広域捜査隊へ復帰しようと考えたわけだ。その志願通り、ジンテは Cholリョンの相棒になったが、北の言うことを信じていない南の上層部は、ジンテに対して、麻薬売買の逮捕以外にあるはずの Cholリョンの“本当の目的”を探れと命じられたから大変だ。韓国警察はこの凹凸コ

ンビによる共助捜査自体を監視するため、2人の若手刑事を起用して盗聴等の任務に当たらせることに。“そんな相互不信”の中で本当に北と南の共助捜査ができるの？そんな心配をよそに、この凹凸コンビはミョンジュンと取引している組織のアジトに乗り込み、ミョンジュンの腹心の1人を追い詰め逮捕したから、お手柄、お手柄！

■□■再びコメディ色満載に！この“色目使い”は何？■□■

『コンフィデンシャル』シリーズに見る、韓国の庶民派刑事カン・ジンテのキャラは、いかにも韓国色満載で面白い。また、前作と同じく本作でも、夫がチョルリョンと共に危険な任務に就くことにトコトン拒否反応を示す鬼嫁と、その妹でチョルリョンに恋心を抱いているパク・ミニョンが再三登場する。さらに、後半からミニョンはチョルリョンとジンテの共助捜査への協力もすることになる。

ミニョンを演じる「少女時代」のイム・ユナは、それなりの美人だし、演技もそれなりのものだが、“色目使い”の局面になると、物語が俄然コメディ色を強めてくるので、本来シリアスな共助捜査であるはずの本作の本筋が失われてしまうのが前作、本作共通の欠点だ。本作のようなシリアスなネタを、なぜこんなコメディ色満載にするの？しかも、後半から、FBI捜査官ジャックが韓国に駆けつけてくると、コメディ色がさらに強まってくるので、アレレ。つまり、それまでは直球でぐいぐい迫ってくるミニョンに対し、チョルリョンはクールに「北と南を統一してください。それなら問題ありません。」とかわしていたのに、自分以上の色男(?)であるジャックがミニョンに対して色目を使っていると、俄然、対抗心を燃やしたチョルリョンは、ミニョンに対して新たな目を向けるという、少女漫画のようなサブストーリーがコメディ色満載で続いていくわけだ。

本作のストーリーの“肝”は間違いなく、チョルリョンとジンテ、そしてジャックという北朝鮮、韓国、そして米国の共助によって、北の裏切り者ミョンジュンの策謀を阻止するという点にあるはずだが、これではちょっと・・・。

■□■北×南×FBI三者共助の成否は？■□■

本作では、北の特務捜査員のチョルリョンもFBI捜査官のジャックも、ニヤけた2枚目の雰囲気をもプンプンさせているから、逆に目立つのが、麻薬密売組織を牛耳るだけでなく、10億ドルの偽造米ドルまで我が物にしてしまおうとしているミョンジュンの悪ぶり。悪役にはサングラスがよく似合うし、ニヒルな顔立ちもよくお似合いだ。そんなミョンジュンは、ジャック率いるFBIとチョルリョンとジンテチームがほぼ同時にアジトに踏み込んでくると、腹心が何のためらいもなく爆発装置のスイッチを押したから、さあ大変だ。北×南×FBI、そんな劇的状況下の三者共助はホントにうまくいくの？

本作ラストのそんなハイライトシーンには、もちろんそれまでニヤけていたチョルリョンもジャックも大奮闘するので、それに注目！2023年9月現在の政治状況では、北×南×米国FBIの共助は夢のまた夢だが、さて本作では？

2023（令和5）年9月27日記